

講座・イベントの  
ごあんない

イベント	日時
■クリスマスオンライン交流会	12月20日(日) 15:00 ~ 17:00
■市民活動推進センターの年末年始の休館日	12月29日(火) ~ 1月3日(日)
■市民活動プラザむつあいの年末年始の休館日	12月28日(月) ~ 1月4日(月)
■市民活動プラザむつあいの休館日変更(成人の日)	1月11日(月) → 1月12日(火)

NEW!

支援施設からのお知らせ

■クリスマスオンライン交流会

市民活動団体や、市民活動に興味をお持ちの個人・企業の皆様が広く交流できる機会として、クリスマス「オンライン交流会」を実施します。市民活動団体のCM紹介や、Zoomを介したグルーブトークを通じて、藤沢の市民活動団体やその活動を知るキッカケとしてご利用ください。

日時：2020年12月20日(日) 15:00 ~ 17:00

内容：NPO 四方山話、団体CM ライブラリーほか

料金：無料

対象：NPO・市民活動に興味がある方

問合せ・申込：市民活動推進センター



実施内容のうち、「団体CMライブラリー」につきまして、参加団体を募集しています。CM動画を未作成の団体向けには作成のサポートを行いますので、ご興味ございましたらセンターまでお問合せください。

■年末年始の休館日のお知らせ

推進センターは年末は12月28日(月)まで、年始は1月4日(月)から開館いたします。

プラザむつあいは年末は12月27日(日)まで、年始は1月5日(火)から開館いたします。

※なお、2021年3月1日(月)及び3月3日(水)の推進センターの会議室等予約は、2020年12月28日(月)より受付いたします。

■プラザむつあい 休館日変更のお知らせ

1月11日(月)は勤労感謝の日のためプラザむつあいは開館いたします。振替として下記の通り休館日が変更となります。

・2021年1月11日(月・祝)開館、1月12日(火)休館

■NPO マネジメント講座

「NPOのファシリテーション」

様々な思いを持って集まっている人のアイデアや想いをくみ取る「NPOならではのファシリテーション」を学びませんか？

日時：2021年1月30日(土) 16:00 ~ 18:00 (オンライン)

2月13日(土) 16:00 ~ 18:00 (オンライン)

2月27日(土) 15:00 ~ 18:00

会場：藤沢商工会館ミナパーク 503会議室

内容：ファシリテーションとは、基礎編から実践編まで

料金：1,500円

対象：NPO・ボランティア団体で活動している方で、全3回に出席できる方

定員：30名

問合せ・申込：市民活動推進センター



■NPO・市民活動・地域活動のためのIT講座

「団体のウェブサイトを作成しよう！」

無料ウェブサイト作成ツール「Jimdo」で、ウェブサイトを作成してみましょう。ウェブサイトの仕組みから実践まで2週連続講座です。

日時：2021年2月15日(月) 13:30 ~ 16:00

2月22日(月) 13:30 ~ 16:00

会場：市民活動推進センター 会議室

内容：ウェブサイトの仕組み・作成(実践)ほか

料金：1団体につき2,000円

対象：NPO・市民活動・地域活動に関わっている方

問合せ・申込：市民活動推進センター



発行：藤沢市市民活動支援施設

本館：市民活動推進センター

開館時間 9:00 ~ 22:00 火曜休館

〒251-0052

神奈川県藤沢市藤沢 1031 GRAFARE FUJISAWA 2F

※ビル名が変更になりました

TEL: 0466-54-4510 FAX: 0466-54-4516

Eメール: f-npoc@shonanfujisawa.com

編集：認定NPO法人 藤沢市市民活動推進機構 (藤沢市市民活動支援施設 指定管理団体)

※この情報誌は、サポートクラブのメンバーのご協力により、皆さまのお手元に届いております。サポーターも随時募集中です！



分館：市民活動プラザむつあい

開館時間 9:00 ~ 19:00 月曜休館

〒252-0813

神奈川県藤沢市亀井野 4-8-1 六会市民センター 2階

TEL & FAX: 0466-81-0222

Eメール: f-npoplaza@shonanfujisawa.com

URL: http://plaza6i.f-npon.jp/



藤沢市市民活動支援施設情報誌「エフ・ウェーブ」

特集：何かしたいを形に



2020年も気づけば残り1ヶ月を切りました。市民活動や私も支援施設のスタッフとしても、世界を席卷した感染症への対応に始まり、何かしらの追われたような切迫感が抜けない1年だったように感じています。そんな中でも暦は進み、今月は新たな年を迎えようとする準備の時期でありまた年を締めくくるため振り返りをする時期でもあります。F-waveとしても年の瀬に初心に帰る意味も込めて、今回は支援施設の運営そのものを支えてくださっている「サポートクラブ」を紹介します。

「サポートクラブ」は、推進センター及びプラザむつあいにとつ

て、スタッフと一緒に市民活動支援に携わる心強いパートナーです。本館である推進センターができた翌年に発足しました。(ちなみに推進センターは来年設立20周年を迎えます!)。館内の管理から、パソコンの相談対応、支援施設によるイベントの企画立案まで、あらゆる場面で「サポートクラブ」のメンバーであるサポーターの方々にご協力をいただいています。実はこのF-waveの郵送や配架ができるのも、封入や運搬をしていただくサポーターの方々の力があってこそ。

(つづく)



## 特集：何かしたいを形に



サポーター交流会

本年は市民活動自体そもそも活動が難しい状況にありましたが、このような時期だからこそ、サポーターの方々の声を聞くことのできる場を設けたいと考え、11月28日にサポーター交流会を開催しました。ベテランの方から今年入ったばかりの方まで様々なメンバーが集まってくださいました。サポーターを卒業して別の団体に活躍されている元サポーターの方からは「始めたきっかけ、現在の活動に至るまでの経緯」を、団体の代表をしながらサポーターとして活動されている方からは「必要なことは全てサポーター特典で受講できる支援施設の講座に参加して学びました」といったことなどを事例発表していただきました。サポート業務や関わり方などそれぞれ違っていても、活動のなかでやりがいを感じる瞬間といったお互い共感し合える箇所がわかると、意見交換にも熱が入り、サポーターの方々から「施設運営上の課題なども是非共有して欲しい！」「できることなんでもやりますので、我々に遠慮しないでどんどんお申し付けください！」など有難いご意見もいただき、とても有意義な時間となりました。

他にも交流会のなかで出た意見から「仕事と家の往復だけの生活で地域のことを何も知らなかった」「公務員を引退しても引き続き地域のことに関わりたいと思った」「何かできるこ

とがあればと思って始めた」等、サポーターになった最初のきっかけは様々なことを見てきました。そうした中、“何かしたい”の想いから市民活動やその支援に携わることで、「サポーターであること」自体が想いを形にしたひとつの成果として受け止めていただけているのだ、ということも窺い知ることができました。

「サポートクラブ」の存在は、藤沢市における市民活動支援施設の大きな特徴であり、その仕組みや活動の様子は、市内外からも評価されています。また、何かを始めるひとつのスタート地点として、これまで地域や市民活動に関わってこなかった方々でも、気軽に参加できる場です。団体を立ち上げたり、卒業して市民活動に従事したり、とメンバーの活動も参加後の道筋も様々で、それぞれが市民活動の多様性を表現するひとつの形そのものではないかと今回の取材を通して強く感じました。2021年も見えてきたこの季節、“何かしたい”そんな気持ちをお持ちでしたらサポートクラブで“想いを形に”してみたいはいかがでしょうか。(取材/記事作成 佐久間・林)



IT講座のサポート

封入作業

## 団体紹介

### 藤沢市市民活動支援施設 サポートクラブ

設立：2002年7月  
問合せ：f-npoc@shonanfujisawa.com  
0466-54-4510  
(藤沢市市民活動推進センター)  
HP：http://npocafe.f-npon.jp/



市民活動の推進・自立化を目指す市民活動支援施設をたくさんの方々に支えていただきたいと考え、2002年7月にサポートクラブ制度が発足。当初はチーム制ではなく、段々とメンバーそれぞれの専門分野を活かすため様々なチームができ、現在ではITスキルを活かした「ITサポート」や市内各公民館にあるラックへチラシを配架する「配架サポート」等様々な活動があります。

「NPOを応援したい」「スキルや経験を活かしたい」という想いをお持ちの方なら、どなた

でもご参加いただけます。何か始めたい！そんな時は、まずはセンター・プラザのパートナーとして市民活動をサポートする「サポートクラブ」に参加してみませんか。



## ボランティア受け入れのステップ

## NPO TIPS

今年はオンラインの活用などボランティアの活動方法の多様化が進みました。とはいえ、ボランティアしたい方々を「受け入れ」ること自体には変わりありません。今回は「ボランティア受け入れ」に当たって大事にしたい3つのステップを紹介します。

### 1. [準備] 「窓口」となる人を決める

まず受け入れ担当となる方を決めましょう。事前に、どんな活動をしていただくか、交通費の有無など、受け入れる際の条件も予め団体内で整理しておくことも重要です。

### 2. [受け入れ] 活動計画と関係性づくり

はじめにボランティア希望者と面談を行い、どんな活動をしたかなど想いを伺います。この時に受け入れ側からも活動内容とあわせて団体が大切にしている想いやミッショ

ンを伝えることが大事です。活動の頻度や行う上での条件・方針を決めながら、双方に意見や考えなどが言いやすい関係を築きましょう。

### 3. [活動開始] 実践と振り返り

ある程度活動された際や、受入終了時には簡単にでもいいので振り返る時間を設けます。ボランティア及び受け入れ側にとって、思い描いていた活動ができたかを聞くことで、双方にとって活動を振り返る貴重な時間となります。

受け入れを行うことで、活動内容や想いを振り返るきっかけになるなど、貴重な機会が得られます。ぜひボランティアの方々と一緒に、同じ時間を共有し、素敵な活動の場を創ってみてはいかがでしょうか？(あ)

### 目標設定と成果の確認

- ・目標を設定することで達成感の醸成に繋がる
- ・成果を振り返り、互いに実績を認識する

### スケジュール立てと関係性づくり

- ・活動期間の日程を管理する
- ・団体メンバーへの溶け込みをフォロー

### 想いや技術を伝える

- ・スタッフと同じ業務をする事で貴重な経験に
- ・活動に取り組む想いや技術を伝える



【コーディネーターの役割】  
出典：地域とつながる  
ワカモノ×NPO「藤沢の流儀」

## 「共感する寄付」から「信頼する寄付」へ



Giving  
December  
寄付月間 2020

政府では、12月は地球温暖化防止推進月間としていて、横浜にある「かながわ県民活動センター」のロビーには、地球温暖化やその防止に関連するポスターが貼られ、チラシなどがたくさん置いてありました。一方、日本ファンドレイジング協会は「Giving December」と銘打って、2015年より「寄付月間」としています。

日本における「ボランティア元年」は138万人がボランティアとして活動した1995年の阪神淡路大震災の発災年であり、「寄付元年」は国民の平均寄付額が倍増した2011年の東日本大震災の発災年といわれ、それぞれ大きな災害がきっかけとなっています。近年でも、熊本地震により崩れた熊本城の復興に向けた「復興城主」寄付や沖縄の首里城火災後の「復興プロジェクト」など寄付への関心度は高く、それぞれ短い期間で目標金額を上回る結果となっています。それよりも以前から、災害に対応する寄付は「義援金」と言われ、被災者に直接手渡しするための募金活動でした。しかしながら、ボランティアが支援活動に動き、支援活動をするための資金として使うための「支援金」が募集されるようになってきています。このような寄付は「共感する寄付」の一つと考えられ、復興のための活動、再建のための活動は、多くの国民の心に届いていることがわかって

きました。近年話題に上っている「寄付型クラウドファンディング」の市場規模の変化(2015年の1.3億円から2018年には10億円 出典：矢野経済研究所)にも顕著に表れています。

一方、「信頼する寄付」は、赤い羽根や福祉基金、財団や社団、NPO法人など、「社会の課題をきつと解決してくれるはず」と信頼と期待を込めて寄付する人が多いのではないのでしょうか。組織や行っている活動への支援となるので、寄付者の判断が求められます。「共感する寄付」に対して、「信頼する寄付」の市場はあまり変化していません。「信頼」は「共感」の延長線上にあることを考えると、多くの社会貢献活動への「共感」は得られていることはわかっているので、「信頼」を獲得するための何らかの方策をとり、寄付に繋ぐことも広くとらえたNPOの役割といえます。市民は何をもって信頼していくのか。NPO法人の場合は組織の情報をできるだけ公開することで信頼確保の道筋をつくっています。貸借対照表の公告もその一つです。

信頼できるNPOの条件は寄付者それぞれです。コロナ禍で活動が緩やかになっている現在ですが、応援や参加してほしい市民を巻き込むチカラを蓄える機会と捉えてみてはいかがでしょうか。(て)